Find Your Beauty ミルボン

2026 年 12 月期 第 3 四半期決算説明会 主な質疑応答（要約）

2026 年 11 月 13 日（金）16：00-16：40
回答者：執行役員 兵庫真一郎

■国内について

1. 9月発売の新カラーブランド「プレトワ」について、明るい色への対応についての状況はどうか？

今後の拡販を考える上でも、明るさ（明度）への対応については、当社としても問題意識を持っておりますので、開発部門、マーケティング部門、教育部門含め、対応策をしっかり検討し、できることはしっかり対応させていただいている状況です。今後の開発については、進捗するものがあれば、適宜開示させていただければと思っております。

2. 「プレトワ」のアップサイドについて、現状どの程度浸透しており、来期以降についてはどう見立てておられるでしょうか？

商品ごとの取扱店舗数については、開示しておりませんので、お答えし兼ねます。当社としては、9 月に発売し、早い所ではリピートが入りつつありますが、本格的なリピートは 12 月にかけて来るものだと思っておりますし、そこをしっかり見極めた上で次年度の予算を固めていきたいと思っております。まだ発売して 2 か月ぐらいの状況ですので、トレンドを見ていくには、もう少し時間と分析が必要であると考えておりますので、しばらくお待ちいただければと思います。

3. 国内の売上状況について、3Q は＋5.4%となっていますが、同時に国内の美容室市場は伸び悩んでいるという話もありました。「プレトワ」が好調なスタートであることや、新商品が好調であること以外で、なにが要因になっていると考えておられるでしょうか？

営業部門と話をしていても、3Q の市場環境はあまり良くないと聞いております。8 月 9 月の天候不順、長雨であったり、暑かったりと色々あったこともあり、美容室周辺の事業環境は決して良くなかったというのが、当社の認識です。その中で、ミルボンは強みである製品力や営業力が奏功した四半期であったと思っております。今後を決して楽観視している訳ではございません。

■海外について

4. 米国の 3Q 売上は、＋33.8%と再び加速しており、多少駆け込みもあったという話もありましたが、そうした特需的な要因を除いた場合、3Q の実質的な成長率はどの程度であると考えていますか？

まず今年の米国については、第 1 クォーターに他社の代理店施策変更の恩恵で大きく売上を伸ばし、第 2 クォーターはそこに少し調整が入るという流れでした。第 3 クォーターについては、10 月からの 5%値上げに向けた駆け込みが 9 月に発生したと考えており、10 月以降の売上動向がどうなるかを見てみないと、どのくらいが駆込みだったか判別しかねます

5. 米国の昨年の 3Q は、2Q の販管費の戻しがあり、今年は前年対比でみると、1 億円ぐらいハードルが高かったという理解ですが、合っていますか？それを加味しても、利益が好調だった要因はなんだとお考えでしょうか？

昨年の影響は 9,900 万円程度あり、2Q で過剰に計上した費用を、営業外費用で 3Q に戻したため、3Q の利益が多く計上されています。そうした影響を除いて比較すると、利益は非常に改善していると言えるかと思います。また、現地のマネジメントと話していると、期初の段階からコストに対しては非常にセンシティブに対応していた印象です。一方的なコスト削減ではなく、メリハリをつけた費用投入を行い効率的なマネジメントをしていると見ています。また、この四半期については関税の還付金（今回だけのものとなりますが）、1 億円が原価のマイナスに効いておりますので、利益の押上げ要因になっています。

■中計について

6. 2027 年 1 月中旬に中計の数字を事前に公表する予定だという話がありましたが、どういう背景からなのか？

中期の目標数値が決まった後で、長い期間、社内で情報を持つことが適切ではないという判断があり、社員に向けて開示するタイミングに合わせ、適時開示をするという決定に至りました。

7. 来期以降の成長のための戦略投資について、成長著しい海外などの投資は積極的に行うべきだと思うが、一方で期間損益が歪むようなリスクもあり得るのか？という部分は気になるが、どのような考えで戦略投資は実施する予定か？

期間損益の考え方は色々あろうかと思いますが、当社としては、まずは中計の目標値を来年開示させていただきます。その目標に向けて初年度どのような施策を展開していくかが重要になると考えております。例えば、海外においては、アンバサダー契約も含め、今後の成長に繋がるような費用などはしっかり使う。一方で、使わなくても問題ないような項目は、しっかり費用の見直しも行っております。その中で、期間損益が極力歪まない形で戦略的な費用投入を進めていきたいと思っております。

以上

注意事項
本資料に記載の内容は、決算説明会の質疑をもとに要約した当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更される可能性があります。
また、業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。